

日本門脈圧亢進症学会  
平成29年研究者海外派遣助成制度応募要項

日本門脈圧亢進症学会  
理事長 小原 勝敏  
教育委員会委員長 村島 直哉

日本門脈圧亢進症学会（JSPH）は発足以来23年を経過し、本邦において門脈圧亢進症患者の診療・研究に多大な貢献を果たし、多くのエビデンスを積み重ねてきた。しかしながら、これらのエビデンスが海外のガイドラインに反映されているとは言い難い状況であった。そこで、本学会において培われた優れたエビデンスを世界に向けて発信し、学会でのdebateを推進するために、研究者に必要な欧米学会参加費用や渡航費用の一部を援助することを目的とする。

海外派遣助成制度の内容

欧米の門脈圧亢進症に関わる主要な学会（Baveno ワークショップ、アメリカ肝臓病学会、ヨーロッパ肝臓病学会、アメリカ消化器病学会、米国消化器内視鏡学会、欧州消化器病学会、アメリカ外科学会、北米放射線学会、ヨーロッパ医学放射線学会ESR、SIR（米国IVR学会）、CIRSE（欧州IVR学会）、米国病理学会等）への参加費及び渡航費用の一部を学会が助成する（一律10万円を目処とする）。

発表内容は門脈圧亢進症に関わる内容に限定し、筆頭発表者は本学会員とする。助成を希望するものは、発表内容の要旨あるいは抄録・発表の月日場所・発表学会名・所属などを記載してある書類を本学会事務局に郵送する。書式は日本門脈圧亢進症学会ホームページからダウンロードすること。入会年と会員歴は記載不要（事務局で記入）。当該学会から発表がアクセプトされた証拠書類のコピーを同封すること。

今回の応募期間は、平成29年4月から8月31日までとする（平成29年3月から12月までに開催されるの学会で発表）。助成対象者については、日本門脈圧亢進症学会教育委員会にて審議・選抜し妥当とされた応募者について、理事会の承認を経て、決定し、学会総会で発表する。

助成を受けた者は、学会発表後可能な限り速やかに本学会へ発表内容の報告書（書式は自由）を送付する。また、直近の本学会総会において、参加した学会に関する報告を行うこととする（報告内容は個別に教育委員会から指示する）。発表内容を本学会誌に投稿しアクセプトされた場合は、次年以降の海外派遣助成審査の際に加点するものとする。